



平成24年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(非連結)

平成23年10月28日

上場取引所 東 名

上場会社名 株式会社 木曽路

コード番号 8160 URL <http://www.kisoji.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 松原 秀樹

問合せ先責任者 (役職名) 経理部長

(氏名) 福本 寛

TEL 052-872-1811

四半期報告書提出予定日 平成23年11月11日

配当支払開始予定日

平成23年11月29日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第2四半期の業績(平成23年4月1日～平成23年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第2四半期	19,771	0.7	921		894		676	
23年3月期第2四半期	19,904	2.4	1,153		1,105		1,893	

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
24年3月期第2四半期	26.18	
23年3月期第2四半期	73.28	

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円		百万円		%
24年3月期第2四半期	36,918		28,205		76.4
23年3月期	38,087		29,018		76.2

(参考) 自己資本 24年3月期第2四半期 28,205百万円 23年3月期 29,018百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年3月期		9.00		5.00	14.00
24年3月期		7.00			
24年3月期(予想)				7.00	14.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想(平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	44,600	2.5	700	170.6	780	91.2	160		6.19

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
以外の会計方針の変更 : 無
会計上の見積りの変更 : 無
修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数 (普通株式)

期末発行済株式数 (自己株式を含む)	24年3月期2Q	25,913,889 株	23年3月期	25,913,889 株
期末自己株式数	24年3月期2Q	72,890 株	23年3月期	72,703 株
期中平均株式数 (四半期累計)	24年3月期2Q	25,841,130 株	23年3月期2Q	25,841,418 株

四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想の前提となる仮定及び業績予想のご利用に当たっての注意事項について、四半期決算短信[添付資料]4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	3
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. サマリー情報(その他)に関する事項	4
(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	4
(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示	4
3. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 継続企業の前提に関する注記	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

(第2四半期累計期間)

	売上高 (百万円)	営業利益 (百万円)	経常利益 (百万円)	四半期純利益 (百万円)	1株当たり 四半期純利益 (円)
平成24年3月期	19,771	921	894	676	26.18
平成23年3月期	19,904	1,153	1,105	1,893	73.28
増減率(%)	0.7	-	-	-	-

当第2四半期累計期間(平成23年4月1日から平成23年9月30日まで)におけるわが国経済は、今年3月に発生した東日本大震災の影響による生産水準の大幅な落ち込みから回復に向かい、個人消費も地上デジタル放送のテレビの駆け込み需要などから夏場にかけて持ち直してきましたが、その後は横這いとなりました。一方、雇用・所得環境の改善は依然厳しく、電力供給不足などの問題に加え、欧州財政不安による海外経済の減速や円高・株安の進行など懸念すべき問題も多く、先行き不透明な状況で推移しました。

外食業界におきましては、東日本大震災後の自粛ムードが沈静化するとともに売上が回復に向かいました。しかし、第2四半期に入って放射性物質による汚染問題が表面化し、また、豪雨・台風など荒天の影響もあり、売上は再び下降に転じました。

このような経営環境の中で当社は、2店舗の新規出店、2店舗の改装、2店舗の業態変更を実施し、その結果、当第2四半期会計期間末の店舗数は172店舗となりました。

営業面では、季節的イベントを開催し、旬の料理の提供とサービスの充実や販売促進活動の強化に注力しました。しかし、放射性物質による汚染問題は、当社にも来店客数の減少をもたらしました。また、店舗数が前年同期に比べ7店舗減少していることもあり、売上高は減収となりました。

費用面におきましては、「食」の安全性の堅持に注力した一方、節電対策を推進し、また、販売促進費の抑制や労働時間管理の改善など経費削減に取り組みました。その他に店舗数が減少していることもあり、賃借料や減価償却費が減少しました。

以上の結果、当第2四半期累計期間の売上高は197億71百万円(前年同期比0.7%減少)となり、営業損益は9億21百万円の損失(前年同期実績11億53百万円の損失)、経常損益は8億94百万円の損失(同11億5百万円の損失)、四半期純損益は6億76百万円の損失(同18億93百万円の損失)となりました。

なお、前年同期においては、特別損失として、資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額8億19百万円を計上したため、当第2四半期累計期間は前年同期に比べ、損失が大幅に減少しております。

(部門別の概況)

部門別売上高

	当第2四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年9月30日)	
	金額(百万円)	前年同期比 増減率(%)
木曽路	16,277	2.5
素材屋	2,076	24.3
じゃんじゃん亭	459	17.1
とりかく	523	3.4
その他	434	141.0
計	19,771	0.7

木曽路部門

しゃぶしゃぶ・日本料理の「木曽路」部門は、2店舗の新規出店、2店舗の改装により、当第2四半期会計期間末店舗数は116店舗となりました。

営業面では、母の日、父の日、敬老の日などのイベント並びに恒例の「しゃぶしゃぶ祭り」を展開、また、季節毎の旬のメニューを充実し、コース料理に加えて一品推奨するなど売上の増加に努めました。既存店の客数は、夏季の節電対策や放射性物質による汚染問題の影響で前年同期に比べ減少しましたが、一方で、客単価が上がったことに加え、店舗数が増加していることもあり、当第2四半期累計期間の売上高は162億77百万円(前年同期比2.5%増加)となりました。

素材屋部門

居酒屋の「素材屋」部門は、2店舗の撤退(「鈴のれん」に業態変更)により、当第2四半期会計期間末店舗数は30店舗となりました。

営業面では、旬のメニューや焼酎のお値打ち価格での提供など中高年をターゲットとした客数の獲得を図る一方、インターネットによる販促活動を強化するなど、業績の回復に努めました。既存店の売上は、期初の震災の影響からは徐々に回復の兆しが見え始めておりましたが、豪雨・台風など荒天の影響を受け、前年同期を下回る結果となりました。また、当部門は店舗数が前年同期末に比べ11店舗減少しており、当第2四半期累計期間の売上高は20億76百万円(同24.3%減少)となりました。

じゃんじゃん亭部門

焼肉の「じゃんじゃん亭」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は10店舗であります。

営業面では、食べ放題メニューの推奨のほか、Eメール会員やキッズくらぶ会員への販促活動を推進、学生予約獲得活動の強化など、来店客数の確保に努めました。しかし、ユッケ食中毒事件により、当社にも来店客数が減少するなどの影響が及び、また、放射性物質による牛肉の汚染問題もあり、当第2四半期累計期間の売上高は4億59百万円(同17.1%減少)となりました。

とりかく部門

鶏料理の「とりかく」部門は、店舗の異動はなく、当第2四半期会計期間末店舗数は10店舗であります。

営業面では、宴会メニューを充実し、おすすめメニューとして旬の逸品を提供、また、インターネット販促による宴会予約の獲得に努めました。この結果、期初の震災の影響から早期に回復する兆しが現れ、既存店の客数・客単価は、前年同期を上回りました。しかし、当部門は店舗数が前年同期末に比べ1店舗減少しており、当第2四半期累計期間の売上高は5億23百万円(同3.4%減少)となりました。

その他部門

その他部門は、和食レストランの「鈴のれん」6店舗、外販(しぐれ煮、胡麻だれ類)、不動産賃貸等であり、当期中に「鈴のれん」が2店舗出店(「素材屋」からの業態変更)しております。当第2四半期累計期間の売上高は4億34百万円(同141.0%増加)となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報**資産、負債及び純資産の状況**

	前事業年度末	当第2四半期 会計期間末	増 減
総資産(百万円)	38,087	36,918	1,168
純資産(百万円)	29,018	28,205	812
自己資本比率(%)	76.2	76.4	-
1株当たり純資産(円)	1,122.96	1,091.51	31.45

当第2四半期会計期間末の総資産は、369億18百万円で前期末比11億68百万円の減少となりました。主な減少は、設備投資、賞与、配当金、法人税等の支払で預金を取り崩したことによるものであります。また、店舗撤退に伴い差入保証金が減少しました。一方、震災の影響で前期末に減少した売掛債権、棚卸資産が増加しました。負債は、前期末比3億55百万円減少の87億12百万円となりました。これは主として、震災の影響で前期末に減少した仕入債務が増加し、法人税等や消費税などの未払税金が減少したことによるものであります。また、新株予約権付社債が償還期限をむかえ残高78百万円を償還しました。純資産は、282億5百万円、前期末比8億12百万円の減少と

なりました。これは主として、四半期純損失6億76百万円、剰余金の配当1億29百万円によるものです。

以上の結果、当第2四半期会計期間末の自己資本比率は76.4%、1株当たり純資産は1,091円51銭となりました。

キャッシュ・フローの状況

(第2四半期累計期間)

	平成23年3月期 (百万円)	平成24年3月期 (百万円)	増減 (百万円)
営業活動による キャッシュ・フロー	459	620	161
投資活動による キャッシュ・フロー	564	39	603
財務活動による キャッシュ・フロー	386	314	71
現金及び現金同等物の 四半期末残高	7,762	8,888	-

当第2四半期累計期間のキャッシュ・フローは、営業活動によるキャッシュ・フローが6億20百万円の流出超過(前年同期は4億59百万円の流出超過)となりました。主な要因は、税引前四半期純損失9億73百万円に対し、減価償却費が7億59百万円であったほか、消費税や法人税等の支払いによるものであります。投資活動によるキャッシュ・フローは、主として差入保証金の回収が店舗投資を上回ったことにより39百万円の流入超過(前年同期は5億64百万円の流出超過)、財務活動によるキャッシュ・フローは、リース債務の返済、配当金の支払等のほか、新株予約権付社債の償還で3億14百万円の流出超過(前年同期は3億86百万円の流出超過)となりました。

この結果、当第2四半期会計期間末の現金及び現金同等物の残高は前期末比8億96百万円減少し、88億88百万円となりました。

(3)業績予想に関する定性的情報

平成23年4月28日に公表いたしました通期の業績予想につきましては、現時点において変更はありません。

2. サマリー情報(その他)に関する事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期財務諸表
 (1) 四半期貸借対照表

(単位:百万円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第2四半期会計期間 (平成23年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,784	8,888
売掛金	663	705
商品及び製品	34	39
原材料及び貯蔵品	367	581
その他	1,164	1,636
貸倒引当金	0	0
流動資産合計	12,013	11,849
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	9,228	9,118
土地	5,637	5,637
その他(純額)	2,133	1,899
有形固定資産合計	16,998	16,655
無形固定資産	361	282
投資その他の資産		
差入保証金	5,922	5,402
その他	2,817	2,754
貸倒引当金	27	27
投資その他の資産合計	8,713	8,130
固定資産合計	26,073	25,068
資産合計	38,087	36,918
負債の部		
流動負債		
買掛金	955	1,035
1年内償還予定の新株予約権付社債	78	-
短期借入金	950	950
未払法人税等	188	120
賞与引当金	496	593
その他の引当金	92	92
その他	2,695	2,369
流動負債合計	5,455	5,162
固定負債		
退職給付引当金	1,408	1,416
資産除去債務	1,240	1,245
その他	962	889
固定負債合計	3,612	3,550
負債合計	9,068	8,712
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,056	10,056
資本剰余金	9,875	9,875
利益剰余金	9,244	8,438
自己株式	111	111
株主資本合計	29,065	28,259
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	46	53
評価・換算差額等合計	46	53
純資産合計	29,018	28,205
負債純資産合計	38,087	36,918

(2) 四半期損益計算書
(第2四半期累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
売上高	19,904	19,771
売上原価	6,352	6,288
売上総利益	13,551	13,483
販売費及び一般管理費	14,705	14,405
営業損失()	1,153	921
営業外収益		
受取利息	13	13
受取配当金	10	9
協賛金収入	17	10
その他	12	10
営業外収益合計	53	43
営業外費用		
支払利息	4	4
寄付金	-	11
その他	0	0
営業外費用合計	5	15
経常損失()	1,105	894
特別利益		
過年度事業所税修正益	30	-
固定資産売却益	2	-
貸倒引当金戻入額	2	-
特別利益合計	34	-
特別損失		
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	819	-
固定資産除却損	95	28
減損損失	178	50
投資有価証券評価損	312	-
その他	15	-
特別損失合計	1,421	79
税引前四半期純損失()	2,491	973
法人税、住民税及び事業税	63	60
法人税等調整額	660	356
法人税等合計	597	296
四半期純損失()	1,893	676

(3) 四半期キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年9月30日)	当第2四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前四半期純損失()	2,491	973
減価償却費	814	759
減損損失	178	50
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	819	-
投資有価証券評価損益(は益)	312	-
売上債権の増減額(は増加)	122	42
たな卸資産の増減額(は増加)	63	219
仕入債務の増減額(は減少)	137	79
その他	123	152
小計	321	497
利息及び配当金の受取額	24	23
利息の支払額	5	4
法人税等の支払額	125	121
その他の支出	31	19
営業活動によるキャッシュ・フロー	459	620
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	610	385
差入保証金の回収による収入	188	546
その他	141	121
投資活動によるキャッシュ・フロー	564	39
財務活動によるキャッシュ・フロー		
社債の償還による支出	-	78
配当金の支払額	284	129
その他	101	107
財務活動によるキャッシュ・フロー	386	314
現金及び現金同等物の増減額(は減少)	1,409	896
現金及び現金同等物の期首残高	9,172	9,784
現金及び現金同等物の四半期末残高	7,762	8,888

(4) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。